

## 謡曲「つ」のノム音について

前 田 正 民

以前に謡曲語句の読み方・発音について発表したことがあるが、今度は「つ」のノム音について、少し詳細に記すこととした。現在では「つ」は、(一)そのまま「ツ」*tsu*と発音する場合、(二)「ツー」と延音にする場合、(三)促音にする場合、の三つであるが、謡曲を謡う際に、「ツ」を口を閉じて鼻に抜いて発音する場合があり、宝生・金春等は「つ」の脇に「ノム」喜多は「ム」観世は「含」の字を添えてある。

「日葡辞書」を見ると「松」は *Matcu*、「夏」は *Natcu*、「月」は *Tyugu* これ等は字訓の場合である。「時日」は *Ijite* 「日月」は *Iiguet* これ等は字音の場合である。「勝手」は *Catte* 「一党」は *Ito* これ等は促音である。(因みに日葡辞書の右の時日・日月の *I* は *J* である。)

右の *t* だけで示しているものが、謡曲のノムにあたる。

謡曲でも字音の場合はノム音に発音し、訓の場合は普通のツに発音されるのであるが、時に訓であるのにノムもがある。今現在宝生流でのノムの場合を全部網羅して検討することとした。他流の方は実際に習ったのでなく、現行謡本に記されているのによって、間々対照した。括弧内の数字は、今後の研究の搜索に資するため、昭和二十七年十二月わんや書店発行の宝生流旅の友によって所在の頁を示したものである。

排列は大体ノム字のある詞上の文字の五十音順により、同じ漢字のものはその漢字のところに集め、その語句中にノム音のあるものはその右側に○を添えておいた。

ノム音を片仮名で羅列し、その次に実例を挙げ、次にその曲名を記し、その下に頁数を記し、同じ語句のものは、曲名と頁数だけを掲げ、同頁内に二つ以上出しているものは、アラビヤ数字で2・3等と記してある。引例中ノム音に謡うものは、その項に属しないものでも、その語の右方に○印を附しておいた。

ノム音が次の字と結合して促音になる場合があるので、これも後にまとめておいた。

甲

ツがノム音になっているもの。

エツ

されば越の臣下にて

カ

喜悦の 大蛇(四〇五) 谷行(二二九八)

恐悦の 小鍛冶(七六八)

困繞渴仰 千引(二二九七) 渴仰するは 花筐(一七一二) 渴仰の 加茂(五一六) 桜川(八三四)

和布刈(二〇二一・二〇二二) 吉野静(二二〇〇) 渴仰申させ 加茂(五七二)

キ

石割地獄 歌占(二〇二二)

等活黒繩衆合 求塚(二〇五四)

ク

不吉の 七騎落(八八〇)

「吉」は、吉日(春榮・藤榮・道成寺・藤戸) 吉次・吉六(烏帽子折) などキチで、キツは珍しい。

岩窟の 千手(一一四六) 卒都婆流(二二八三)

人馬うんくつに身を砕き 小鍛冶(七六四)

附記 宝生・金春・喜多各流は「うんくつ」であるが、観世は「巖窟」となっている。「う」と変体仮名の「か」とは字形が似ているので、観世の方では「がんくつ」にしたものかと思う。

ケツ・ゲツ

決定往生 誓願寺(一〇四七・一〇四九・一〇五〇) 遊行柳(二二二五) 決定する 誓願寺(一〇五〇)

黄纈纈の 江口(二六四)

同穴の 班女(一七二八) 借老同穴の 楊貴妃(二二六五) 關穴道の 弱法師(二二二八)

断見の科 放下僧(一八六三)

附記 観世・金春・喜多、何れもダンケン

重結に 歌占(一九四)

一月夜々の 羽衣(一六四六) 雨月の 雨月(一七三三) 雲月の 姨捨(三六六) 円月に 当麻(一二二一)

七) 円月の 当麻(一二二一) 海月も 鷺(一六一三) 花月が身に 花月(四四一) これは花月、名

こそかはるとも 花月(四四二) 八月九月げにまさに 砧(五八五) 遊子残月に 二人静(二二九六)

二月に 舍利(九二四) 二月の 高砂(二二三〇) 弱法師(二二二〇) 日月遅しと 邯鄲(五五一)

眼は日月面を向くべき 紅葉狩(二〇六四) 日月の 海人(八九・九四) 大江山(三三一) 咸陽宮(五

五八) 鶴亀(一三九八) 船弁慶(一八四〇) 新月の 雨月(一七四) 姨捨(三六二) 小督(七七四)

融(一四九七) 三井寺(一九五八) 八月半の日 女郎花(三九二) 風月の 松虫(一九三三) 来殿

(二二三三) 明月に 小督(七七四) 羽衣(二六三九) 三井寺(一九六〇) 明月にて小督(七七二)  
 三井寺(一九五五) 名月に 融(二四九七) 名月の 融(一四九八) 夜月に 生田敦盛(一三三一) 松シロヤ  
 風蘿フズ月に 江口(二六四) 定家(二四二二) ○原文定家の方は蘿月となっている。朧月の百万(一七八三)  
 コツ

乞丐人 卒都婆小町(二一七六) 弱法師(二二二九) 乞食 景清(四二五・四二八・四三〇) 卒都婆  
 小町(二一七六)  
 忽然と 当麻(二二一三) 野宮(二六一七) 遊行柳(二二二二) 粗忽なる事を 撰待(二一〇一・一一  
 〇五) 三井寺(二九六五) 粗忽にや 橋弁慶(一六六六) 粗忽には 橋弁慶(一六五九)  
 器量骨柄 撰待(二一〇八) 御こつがら 八鳥(二〇八九) 骨髓の 小鍛冶(七六七) 朽骨 朝長(一  
 五三五)

サツ

歌舞の菩薩の 杜若(四一五・四一六) 胡蝶(八〇六) 誓願寺(二〇五七) 当麻(二二二六) 東岸居  
 士(一四五二) 遊行柳(二二二六) 行基菩薩の 卷絹(一八八七) 楊柳観音菩薩 養老(二一九三)  
 四菩薩も 舍利(九二四) 諸仏諸菩薩 鉄輪(四九三) 大菩薩 誓願寺(一〇五六) 八幡大菩薩 弓矢  
 立合(二二九四) 八幡大菩薩の 弓八幡(二一三七) 藤戸(一八一九) 仏菩薩の 大原御幸(三八〇)  
 妙音菩薩も 呉服(六八二) 菩薩の 熊坂(六四四) 東岸居士(二四五二) 放生川(一八七二) 盛久  
 (二〇七二) 菩薩も 葵上(二六) 天鼓(二四二七) 通盛(一九八〇)

附記 薩摩湯(大原御幸) 薩摩守(俊成忠度・忠度・通盛) 薩摩の国(鳥追)など「薩摩」の場合はノム

音にしない。観世・金春・喜多など皆同様である。

雁。ぞかし 高野物狂(七四七) 金札の 金札(六一〇) 高札の 咸陽宮(五五九) 撰待(二〇九八)  
 颯々の 雨月(二七六) 須磨源氏(二〇二二) 高砂(二三二・二) 龍田(二二七九) 木賊(二五一二)  
 羽衣(一六四九) 松尾(一九二二)

シツ・シツ

勸学の室に 来殿(二二三・三) 方丈の室に 東北(一四八五)  
 庵室へ 自然居士(九〇二) 是界(二〇六一) 庵室へと 西行桜(八一〇) 庵室に 車僧(六六七)  
 西行桜(八一〇) 庵室の 大原御幸(三七四・三七七) 芭蕉(一六六九) 大会(一一八八) 三輪(一  
 九九六) 西行桜(八一〇・八一) 庵室も 熊坂(六四五) 御庵室に 大原御幸(三七四) 弊室に  
 雲雀山(一七五六) 周室の 小鍛冶(七六二)  
 無実の 来殿(二二三・四) 松浦物狂(二二七〇) 花実の 西行桜(八二二・八一六) 高砂(一二二五)  
 桃実の 西玉母(一〇四五)  
 日月 影おろそかに 鍾馗(九七八) 日光雲晴れて 草薙(六二〇) 日光かかやきて 竹生島(一三  
 五六) 日光かかやけば 三輪(二〇〇三) 日月を 放下僧(一八六一) 日月遅しと 邯鄲(五五一)  
 眼は日月面を向くべき 紅葉狩(二〇六九) 日月の 海人(八九・九四) 大江山(三三一) 咸陽宮(五  
 五八) 鶴亀(一三九八) 船弁慶(一八四〇) 一日に 邯鄲(五五四) 一日の 歌占(二〇二) 桧垣  
 (一七五一) 槿花一日の 敦盛(七六) 兼平(五〇七) 関寺小町(二〇七八) 千手(一一四六) 五  
 日の 松尾(一九二二) 養老(二一九二) 終日なり 絃上(七二三) 十日の 養老(二一九二) 西日

影残りなく 呉服(六七八) 夕日漸く 船橋(二八三四) 夕日の 石橋(九一七) 錦木(一五七九)  
 半日の客 鞍馬天狗(六五五) 志賀(八六九) 石橋(九一二) 木賊(一五二〇) 鳥追(一五五九)  
 落日の 実盛(八四四) 誓願寺(一〇五六) 羽衣(一六四八) 連日に 呉服(六七八)

シユツ

出現して 石橋(九一六) 竹生島(一三五七) 放生川(一八七七) 鶴亀曲(二二七四) 御出なり 殺  
 生石(二〇八九) 退出申しけり 正尊(一〇〇六)

セツ・ゼツ

切なる心を 谷行(一二九八) 切なるは 来殿(二二三二) 切なりしは 鉢木(一七〇一)  
 殺の報殺の縁 春栄(九四五) 殺害三界 項羽(七二九) 藤戸(二八三三) 殺害の 籠太鼓(二二四八)  
 刹那に 歌占(二〇〇) 刹那が間に 大会(一一九三) 聴<sub>キ</sub>宝刹の 当麻(二二一七) 阿房羅刹の 綾鼓  
 (一〇四) 阿防羅刹の 砧(五八七)  
 截断して 歌占(二〇二)  
 五節の 国栖(六三七) 杜若(四一五) 関寺小町(一〇八二) 時節かな 舍利(九二二) 時節ならば  
 車僧(六六八) 時節なり 当麻(二二二五) 時節なるべし 弱法師(二二二四) 時節なるらん 大原御  
 幸(三七八) 時節なればと 隅田川(一〇三六) 時節に 小鍛冶(七六六) 実盛(八四六) 田村(一  
 三二一) 野宮(一六一五) 盛久(二〇八一) 時節の 春日龍神(四六八) 盛久(二〇七九) 時節も  
 東北(一四八四) 石橋(九一七) 時節やな 車僧(六六八) 時節よと 当麻(二二二四) 頼朝への御  
 忠節。 錦戸(一五九三)

廻雪の放生川(一八七九) 雨露霜雪の芭蕉(二六七八) 氷室(一七七五) 雪月花(二二六九) 団

雪の班女(一七三〇) 暮雪に八景(二二五七)

縹緖の千手(一一四六)

仏平等説如一味雨 定家(一四一二) 仏説に誓願寺(二〇五四) 両説いづれも 野守(一六三二) 本

説にて 船橋(一八三二)

鶯舌の卒都婆小町(一一七五) 黄舌の歌占(一九七) 妄舌の江口(二六五)

ソツ

帥の阿闍梨 檀風(一三二七・一三二九・一三三二)

卒爾の望月(二〇三〇) 獄卒阿防羅刹の砧(五八七)

兜率に 須磨源氏(二〇一九) 兜率の雨月(二七八) 須磨源氏(二〇一八) 都率の国栖(六三四)

タツ・ダツ

三世了達の松尾(二九一九)

深達罪福相 海人(八九五)

解脱の江口(二六三) 得脱の葵上(一六) 通盛(一九八〇)

楽乾闥婆王 春日龍神(四七四) 楽音乾闥婆王 春日龍神(四七四)

テツ

鉄丸を 歌占(二〇三) 山は鉄城 清経(六〇五) 鉄杖頭を 歌占(二〇三) 鉄杖の黒塚(六九三)

野守(一六三七) 熱鉄の桧垣(一七四九)

ネツ

炎熱。酷熱。無間の 求塚(二〇五四) 焦熱。大焦熱。なりとも 善知鳥(二一三三) 焦熱。大焦熱の 阿漕(二二六)

歌占(二〇三三) 東岸居士(一四四九) 三熱の 葛城(四八四・四八六) 卷絹(一八八三)

ハツ・バツ

十悪八邪の 誓願寺(二〇五七) 八大地獄の 求塚(二〇五四) 八大龍王 岩船(一五六) 春日龍神

(四七三・四七四・二) 絃上(七二二) 八大龍女 絃上(七二二) 七大大金剛童子 檀風(一三四七)

野守(一六三七) 三途八難の 江口(二六四) 四病八病 草紙洗(一一六三) 一面八丈の 野守(一六

三七) 十八の賢あり 三笑(八六〇) 伐木丁々として 山姥(二一一)

白髪。歌占(一九八) 西行桜(八一四) 遊行柳(二一二二)

跋。難陀龍王 春日龍神(四七三) 大跋。提河 上宮太子(二二七三)

天罰。に 安宅(六三) 天罰。にて 田村(一三二三) 天鼓(一四二六) 天罰。の 土蜘蛛(一三八六)

ヒツ・ピツ

必滅を 桧垣(二七四八) 生者必滅の 熊野(二一五二) 楊貴妃(二二六四)

畢。命を 当麻(二二一三)

彈正の大弼。仲国 小督(七七二) 自筆。に 正尊(一〇〇三) 自筆。の 鉢木(一七〇二) 文筆。の 来殿(二二三四)

琴瑟。にあたり 半部(一六五四)

ブツ



仏在世に 頼政(二二二〇) 仏在世の 舍利(九二二) 鍾道(九七七) 仏事を 采女(二二四) 杜若  
 (四一六) 誓願寺(一〇五七) 殺生石(一〇九二) 経政(一三九〇) 芭蕉(一六七三) 仏事をば  
 采女(二二四) 仏事と 満仲(一九五〇) 仏事は 朝長(一五三六) 声仏事をも 山姥(二一〇四)  
 声仏事をや 熊坂(六四五二) 錦木(一五八二) 仏神に 鉄輪(四九二) 仏神三宝も 清経(六〇一)  
 仏前に 舍利(九二二) 誓願寺(一〇五四・一〇五五) 田村(二三二) 経政(一三八九) 調伏曾我  
 (一三六七) 仏像 弱法師(二二二二) 仏像を 千手(二一四九) 仏陀の 調伏曾我(一三六五) 朝  
 長(一五三五) 神明仏陀の 東北(一四八三) 船弁慶(一八五一) 仏道ならざらん 通小町(五四〇)  
 仏道ならせ給ふべし 定家(一四一三) 仏道をも 邯鄲(五四五・五四七) 仏道修行の 自然居士(八九  
 八) 共に仏道なりにけり 通小町(五四四二) つれ参らせて仏道つれ参らせて仏道の 花月(四四七)  
 皆令入仏道の 通盛(一九七六) 皆令仏道 高野物狂(七五四) 仏日光ますますにして 氷室(二七七五)  
 仏日の光 東岸居士(一四四八) 仏日西天の 弱法師(二二二二) 神変仏力にあらずは 石橋(九一七)  
 法華一仏 誓願寺(一〇五六) 一仏成道 鷲(二六一〇) 野守(二六三五) 一仏魔境 是界(二〇六七)  
 一仏乗の 兼平(五〇二・五〇三) 大会(二一八八) 見仏の縁 舍利(九二二) 見仏聞法 西行桜(八  
 一一) 是界(一〇六四) 当麻(二二二・二二八) 東北(二四八三) 讚仏乗の 采女(二三二)  
 加茂物狂(五二九) 藤(一七九九) 山姥(二二二三) 持仏堂 熊坂(六四二) 錦戸(二六〇二) 望  
 月(二〇三五) 心外無別法心仏及 柏崎(四六一) 三世の諸仏 自然居士(八九五) 大仏供養(一一九  
 七) 三世の諸仏の 梅枝(二三八) 諸仏の 当麻(二二〇九) 諸仏も 張良(一三七五) 諸仏出世の  
 放生川(二八七四) 諸仏菩薩 鉄輪(四九三) 成仏疑ひあるべからず 殺生石(一〇九二) 成仏ここに

藤(一七九九) 成仏。まさに 頼政(二二〇九) 悉皆成仏 采女(二二八) 鴛(一六一〇) 即身成仏。  
 葵上(一五) 飛雲(一七四二) 即得成仏。梅枝(二三九) 若我成仏。敦盛(七三) 柏崎(四六二)  
 三山(一九八八) 女人成仏。疑ひあるべからず 梅枝(二三九) 成仏。せずと 梅枝(二三九) 成仏。なれば  
 巴(一五二〇) 成仏の 敦盛(七五) 砧(五九〇) 芭蕉(一六七四<sup>2</sup>) 藤戸(一八二六) 三井寺  
 (一九五九) 遊行柳(二二一八) 悉皆成仏の 杜若(四二〇) 定家(一四一三) 衆生成仏の 梅枝  
 (二三八) 草木成仏の 芭蕉(一六七三) 草木国土成仏の 采女(二三三) 当麻(一二二) 即身成  
 仏の 高野物狂(七五四) 皆成仏の 西行桜(八一六) 弱法師(二二二〇・二二三三) 若我成仏の 誓  
 願寺(一〇五七) 即心即仏の 安宅(五六) 皆俱成仏。道 鴛(六一〇) 悉皆成仏。道 半部(一六五一)  
 大仏。殿にて 大仏供養(二二〇二) 二仏の 木賊(一五二) 百万(二七八九) 念仏の 実盛(八四四)  
 百万(一七八二) 念仏を 誓願寺(一〇五一) 夜念仏。申せ人々よ夜念仏。いざや 柏崎(四五八) 夜念仏。  
 声清光に 春栄(九四六) 月の夜念仏。諸共に 隅田川(二〇三六) 夜念仏の夜念仏の 隅田川(一〇三六)  
 誓願寺(一〇五一) 六万遍の念仏。小袖曾我(七九三) 念仏。称名の 高野物狂(七四九) 念仏。申し 敦  
 盛(七四) 念仏に 百万(一七八二) 念仏の 当麻(二二〇七) 隅田川(一〇三七) 誓願寺(一〇四  
 六) 念仏を。さへ 隅田川(一〇三六) 念仏を。ば 隅田川(一〇三七) 念仏をも 三山(一九八一) 大  
 念仏。にて 隅田川(一〇二九) 百万(一七八二) 魔仏。一如 是界(一〇六七) 靈仏。靈社 龍田(一二六  
 八) 玉葛(一三〇〇) 南無婦依仏。野守(一六三五) 阿弥陀仏。阿弥陀仏。土車(二二六五) 阿弥陀仏。  
 隅田川(一〇三六) 阿弥陀仏。なるべし 誓願寺(一〇五二) 南無阿弥陀仏。弥陀如来 清経(六〇四) 南  
 無阿弥陀仏。百万(一七九一) 南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。隅田川(一〇三六・一〇三七)

南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏と 隅田川(一〇三七) 朝長(一五三三)

附記 南無阿弥陀仏をナムアマミダブと謡う場合は他にもある。

見物の 鳥追(一五四九) 万物の 高砂(一二二六) 氷室(一七七四) 名物なり 錦木(一五七七・一五七八) 名物にて 錦木(一五七八)

ベッ

別。行の 葵上(一一三) 弾師曾我(一一三六) 教外別。伝にして 放下僧(一八六二) 愛別。離苦の 源氏供養(七〇四) 天鼓(二四二二) 怨別。の 呉服(六八一) 死別。ならば 谷行(一二九一) 是三無差別。何疑ひの 柏崎(四六一) 分別。なし 桧垣(一七四八) 送離累別の 祇王(五七二)

ホッ

発願。の 自然居士(八九四) 誓願寺(一〇五一) 廻向発願心 実盛(八五三) 見我身者。発。菩提心見我身者。発。菩提心 黒塚(六九三) 飛雲(一七四〇)

マッ

末代に 実盛(八五七) 放下僧(一八六七) 八島(二〇九七) 末代。の 絵馬(三〇三) 兼平(五〇八) 高砂(一二二七) 三輪(二〇〇〇) 末世末代。の 俊成忠度(九六九) 末代。も 草紙洗(一一六三) 末代長久。の 氷室(一七七三) 芭蕉泡沫。の 葵上(八)

ミッ

密厳浄土 卷絹(一八八八) 三密。の 葵上(一三)

メツ

モツ

リツ

入相は寂滅。三井寺（一九六一） 生滅。滅已 三井寺（一九六一） 即滅。無量罪 実盛（八五三） 当麻（二〇八） 双林の入滅。春日龍神（四七五） 双林の入滅。まで 春日龍神（四七二） 生者必滅の 熊野（一五三） 楊貴妃（二一六四） 常住不滅の 簾（二六九） 松尾（一九一九）

本来一物なき時は 卒都婆小町（二一七九） 大物の浦 船弁慶（二八四〇・一八四一・二） 利物の 嵐山（二一四） 龍田（二七三） 松尾（一九一九）

呂律の 国栖（六三四） 糸竹呂律の 西王母（一〇四四） 関寺小町（二〇七二） 天鼓（二四二五・一四二六）

附記 律呂をリンリョと謡う場合が経政（一三九五）に一箇処あるが、観世・金春・喜多などは皆ノムことになっている。

レツ

列。座せられたり 調伏曾我（一三六二）

況んや下劣。歌占（二〇二） 勝劣。なけれども 姨捨（三六五） 勝劣。見えざりけり 西王母（一〇四〇）

以上はすべて字音であるが、字訓の場合に次の特例がある。

ガツ

山賤。なれども 須磨源氏（二〇一四） 山賤。に 石橋（九一三） 山賤。にて 忠度（二二五七） 山賤。の 小

塩(三四七・三五二) 胡蝶(八〇二) 志賀(八七〇・八七一・八七六<sup>2</sup>) 草紙洗(一一六三) 半部  
 (一六五四) 芭蕉(一六七〇) 飛雲(一七三七) 山姥(二二二) 山賤へきらと 須磨源氏(一〇二  
 一)

クツ

くつばみを 巴(二五二二) 八島(二〇九五) 頼政(二二二二)

コツ

木津川 田村(一三二四)

シマツ

蓬が島つ鳥 楊貴妃(二一六七)

ミツ

春満殿 高野物狂(七四三・七五六) 千満ごさめれ 三井寺(一九六五)

二つもなく三もなく 鶺鴒(一六八)

ヤツ

八つの冠を 春日龍神(四七五)

レツ

恐れつべうぞ見えたる 安宅(六一)

字訓の場合は流儀によって色々異っている。曲によっては文字の異っているものもある。例えば石橋の「山賤」は、観世喜多では「山人」とし、忠度では喜多は「里人」金春は「このあたりの人」田村の「木津川」は喜多・金

春は「淀川」となっている類である。字訓の場合観世はすべて普通の「ツ」に発音してノム音になっていない。又右記の曲目中、喜多・金春に現在行われていない曲もあるが、現在のものによって調べて見ると、「山賤」の方は喜多・金春とも宝生同様ノムようになっている。なお宝生では「志賀」（八六九）飛雲（一七三六）の二箇所は「を」に接して「山賤を」となっている処で、ここはノム音でなく普通のツに謡うのであるが、喜多流ではヤマガットと謡うようになってるのは面白く、注目すべきことである。クツバミは喜多も観世と同様ノム音になってはいない。金春では、巴と八島とはノム記号を附し、頼政の「くつばみ」はノム記号がない。シマツドリは喜多はノム。金春は楊貴妃の最新版が出ていないので不明。「春満」は喜多ノム。金春にはこの曲はない。「千満」は喜多・金春共にノム。鶉飼の「三つも」春日龍神の「八つの」安宅の「恐れつ」は喜多・金春ともにノムになっていない。

以上によってツがノム音になっているものは次の通りになる。

エツ カツ ガツ キツ クツ ケツ ゲツ コツ シツ シュツ セツ ゼツ ソツ タツ ダツ テツ  
 ネット ハツ バツ ヒツ ピツ ブツ ベツ ホツ マツ ミツ メツ モツ ヤツ リツ レツ

但し右の内、ガツ ヤツ は字訓にだけある。ツが次に来る音のために促音になる場合が多いので、甲に掲げた同種の語を主として、乙の項を設け対照することとする。

乙 ノム音の方は全部網羅したつもりであるが、多少の脱漏があるかも知れない。促音の方は余り紙面を費すことになるので六七分に止めることにした。促音になる字の右方に○をつけておいた。

ガツ

山賤と承り候へども 須磨源氏（一〇一四）

ケツ・ゲツ

借老同穴と 籠太鼓(二二四九) 海月と共に 鶯(二六四三) 花月と 花月(四四〇・四四一) 花月  
 を 花月(四四五) 漢月袖に 卒都婆小町(二一八一) 皎月照し 和布刈(二〇二二) 江月照し 弱法  
 師(二二二五) 雪月花の 雪月花(二二六九) 年月を 関寺小町(二〇七七) 道成寺(一四五七) 八  
 月九月 砧(五八五) 明月を 放下僧(一八六一) 明月清風 放下僧(一八六一) 嘉辰令月とは 春榮  
 (九九九) 朧月松閣 老松(三一五) 朧月は 半部(一六五三・二)

コッ

髑骨と 景清(四二四) 白骨と 朝長(一五三九) 桧垣(一七四七) 亡骨と 朝長(一五三五)

サッ

薩。埵 高野物狂(七五二) 自然居士(八九五) 盛久(二〇七二) 唯願薩埵 朝長(一五三八) 観音薩  
 埵 田村(一三一五) 金剛薩埵 卒都婆小町(一一七七) 高貴徳王菩薩と 雨月(一七八) 菩薩。聖衆  
 誓願寺(一〇五五・一〇五八) 大会(一一九二) 歌舞の菩薩。声々に 土車(二二六五) 歌舞の菩薩と  
 誓願寺(一〇五五) 東北(一四八二) 開くる花の菩薩と 藤(一七九八) 示現大菩薩。八幡の 弓八幡  
 (二一三九) 八幡大菩薩と 鶯(二六〇八) 紅葉狩(二〇六五) 八幡大菩薩は 願書(二二九一) 普  
 賢菩薩と 江口(二六六)  
 颯々たる 関寺小町(二〇七一) さっさつたる 錦木(二五八九) 颯々として 東岸居士(一四五〇)  
 鉄札数を尽くし 鶯飼(一六七)

ジッ

槿花一日唯同じ 源氏供養(七〇二) 斜日竹竿の 老松(三一五) 終日を 祇王(五七二)  
 実相の 鶯(二六一〇) 放生川(二八七六) 松尾(一九二〇) 諸法実相 芭蕉(一六七八) 諸法実相  
 の 芭蕉(一六七三) 真如実相の 弓八幡(二一八三) 唯一実相 卷絹(一八八七) 真実志の深き事  
 は 来殿(二二三三)

シユツ・シユツ

退出しける 盛久(二〇八二)

○正尊の「退出申しけり」の「出」はノムになっていることは甲に記したが、そこに挙げた「出現」「御出」  
 の如きノム音の方は稀な例で、 出家 出化 出仕 出生 出世 出来 出離 などはずべて促音でここで  
 は省略する。

秘術を 兼平(五一一) 熊坂(六五〇) 夜討曾我(二一八〇) 魔術を 大会(一一九三)

疲瘁する 鸚鷯小町(三四二)

セツ・ゼツ

切々として 岩船(一五四) 経政(一三九五)

御折檻にて 満仲(一九四〇)

雪山の 歌占(二〇〇) 鉢木(一六九二) 雪中に 竹雪(二四〇) 夏雪と 三笑(八六三) 紫雪。紅

雪とて 氷室(一七七二)

殺生を 善知鳥(二一四) 殺生かな 阿漕(一八) 殺生だに 放生川(一八七二) 殺生偷盜 東岸居士

(一四四九) 殺生の 阿漕(一八) 善知鳥(二一五) 放生川(二八七二) 一殺多生の 鵜飼(一六三)

(一六)



時節。刑戮に 盛久(二〇七八) 時節。唯今なり 盛久(二〇七五) 時節。は 小鍛冶(七六八) 時節。を 鞍  
 馬天狗(六六三) 大仏供養(二二〇五・二二〇六) 檀風(一三四二) 船弁慶(二八四四・一八五〇)  
 放下僧(一八五六) 羅生門(二二四五) 時節。到来なり 朝長(一五四〇)  
 説法 春日龍神(四七五) 御説法の 大会(二一九〇)  
 撰取せよ 殺生石(二〇九三) 撰取の 松尾(一九二六) 撰取不捨 三山(一九八八) 山伏撰待 撰待  
 (二〇九七・一〇九八) 撰待を 撰待(一一〇〇・一一〇三) 撰待をば 撰待(一一〇〇) 撰待と 撰  
 待(二〇九八・一一〇二) 撰待に 撰待(一一〇五) 撰待の 撰待(一一〇三) 撰待は 撰待(二〇九  
 八)

両舌は 東岸居士(一四四九)

ソッ

獄卒。は 求塚(二〇五三) 士卒。あり 自然居士(九〇六) 藤栄(一四三八)  
 率土の 国栖(六三七) 小鍛冶(七六七) 鷺(八二三) 田村(二三二二) 兜率。天より 須磨源氏(一  
 〇二〇)

タッ・ダッ

達者。なりし上 柏崎(四五八)  
 達多。が 熊坂(六四四)

錐ふくろに脱すとは 梅枝(二四〇) 解脱。上人 春日龍神(四六八)

テッ

幽玄の底に徹し 放下僧（一八六三）

鉄杖を 羅生門（二二四五） 鉄鳥と 求塚（二〇五二） 鉄壁 熊坂（六五〇）

鄭。県の 枕慈童（二八九七） 鄭。県山 枕慈童（二八九一・一八九二・一八九五）

○鄭。県は親世はレッケン、宝生・喜多・金春はテッケンと読む。

## ハッ

八。教を 大会（一一八七） 毎年八講 海人（九五） 八。歳の 海人（九五） 二十八宿を 鉄輪（四九三）

八。旬に 撰待（一一一七） 盛久（二〇七八） 八。正道を 放生川（一八七四） 八。相成道 蟻通（一二二四）

龍田（一二七三） 松尾（二九一九） 三代八部 草紙洗（一一六三） 十八公の 高砂（一二二六）

一鉢を 関寺小町（一〇七二） 衣鉢を 殺生石（一〇九一・一〇九二）

拔群に 鵜飼（一六一） 拔群の 盛久（二〇七二）

罰を 正尊（一〇〇九） 御罰を 安宅（五六） 正尊（一〇〇四） 天罰は 羅生門（二二四四） 天罰を

鴛（一六一一）

白髪は 歌占（二〇四） 白髪。たるべきが 実盛（八五四） 白髪。と 歌占（一九三） 実盛（八五六） 白

髪とは 歌占（一九二） 柳髪。風に 鸚鵡小町（三四一） 昭君（九八八）

## ヒッ・ピッ

筆。者の 俊寛（九五七）

一筆。啓上 鞍馬天狗（六五四）

## ブッ

仏果 鶺鴒(一六八・一六九) 采女(二二八) 杜若(四一六) 清経(六〇五) 黒塚(六八八) 胡蝶  
 (八〇五・八〇七) 誓願寺(一〇五五) 忠度(二二六〇) 藤(一七九八) 六浦(二〇一三) 遊行柳  
 (二二二三) 頼政(二二一〇) 仏閣 舍利(九一九) 弱法師(二二三三) 仏教 卒都婆小町(一一七  
 四) 仏骨を<sup>い</sup> 舍利(九二三) 仏舍利 舍利(九二〇・九二一・九二二・九二四・九二五・九二七) 仏  
 種 竹雪(一二四四) 木賊(一五一四) 仏衆生 兼平(五〇二) 仏所 鶺鴒(一六七・一六八) 梅枝  
 (二四二) 仏性 采女(二二八) 天鼓(一四二三) 仏身 梅枝(二三九) 黒塚(六八八) 舍利(九  
 二四) 仏跡 春日龍神(四六六・四七五) 石橋(九二二) 仏体 春日龍神(四七二・二) 殺生石(二〇九二  
 ・二〇九三) 卒都婆小町(一一七六・一一七七・一一七八) 仏意<sup>よ</sup> 源氏供養(七〇三) 仏智 石橋(九一  
 三) 仏敵 是界(一〇六四) 仏法 海人(九五) 采女(二三三) 梅枝(二三八) 春日龍神(四七〇)  
 車僧(六六七) 鷲(八二四) 舍利(九二三・九二四) 春榮(九四五) 誓願寺(一〇四七) 是  
 界(一〇六〇・一〇六二・一〇六三) 大会(一一八八) 竹雪(二四四) 東岸居士(二四四七) 木賊  
 (一五一四) 鷲(一六一) 山姥(二一一) 弱法師(二二八・二三二) 来殿(二三〇)  
 仏力 是界(一〇六九) 田村(一三二一・一三三二) 一仏と 田村(一三三二) 後仏は<sup>は</sup> 卒都婆小町  
 (一一七三) 讚仏 転法輪 東岸居士(一四四七) 自身自仏は<sup>は</sup> 放下僧(一八六三) 無量寿仏となう実盛  
 (八五一) 龍女成仏 海人(九五) 即身即仏と 黒塚(六九四) 道成寺(一四五九) 飛雲(一七四二)  
 悉皆成仏と 殺生石(一〇九二) 成仏する 放下僧(一八六四) 無一不成仏と 梅枝(二三九) 成仏せ  
 しめ 殺生石(一〇九三) 成仏得脱 藤戸(一八二六) 前仏は<sup>は</sup> 卒都婆小町(一一七三) 人仏不二高野  
 物狂(七五二・三) 放生川(一八七四) 念仏四五返 隅田川(一〇三二) 念仏して 敦盛(八〇) 念仏す

誓願寺(一〇五一) 念仏を 隅田川(一〇三二・一〇三五) 念仏三昧 誓願寺(一〇四八) 当麻(一二一三) 念仏衆生 敦盛(七三) 忠度(一二六五) 三山(一九八八) 經念仏して 松風(二八九九) 大念仏を 隅田川(一〇二二) 夜念仏を 誓願寺(二〇五一) 融通念仏を 三山(一九八一) 弥陀仏とぞ 半部(一六五五) 一念弥陀仏即滅無量 敦盛(七五) 一念弥陀仏即滅無量罪 実盛(八五三) 当麻(二二〇八) 廬舎那仏を 安宅(五八)

物騷 隅田川(一〇二四) 万物時にありながら 氷室(一七七五)

別して 春榮(九三三・九三四) 別当 調伏曾我(一三六二・一三六五) 天王記別を 海人(九五) 差シヤ別は 海人(八三) 生別離の 谷行(二九二) 離別して 鉄輪(四九一) 竹雪(二三三)

ホッ

一念発起 鍾馗(九七九) 辛都婆小町(一一七八) 発心 高野物狂(七五二) 放下僧(一八六四) 盛

久(二〇七九) 発身 護法(二二九八)

マッ

末社 右近(一八六) 老松(三一六) 放生川(一八七七) 末世 杜若(四二六) 花月(四四一) 高野物狂(七五三) 舍利(九二) 誓願寺(一〇五五) 蟬丸(一一三二) 張良(一三七三) 羽衣(一六四二) 花筐(一七一三) 桧垣(一七四六) 三輪(一九九九) 盛久(二〇七七) 熊野(二二四四) 弓八幡(二一三八) 弱法師(二二一八・二二三三) 末法 東岸居士(一四四七)

ミッ

密宗 是界(一〇六三) 顕密兼学 是界(一〇六三)

メツ

滅。し 遊行柳(二二二三) 滅。して 通小町(五四四) 滅。せし事 鶯(二六一二) 滅。色 歌占(一九五)

俊寛(九五五) 是生滅。法 関寺小町(二〇八〇) 三井寺(一九六一) 生滅。し 歌占(二〇〇)

モツ

供物。を<sup>ト</sup> 鉄輪(四九二二) 御神物。とも 加茂(五一七) 代物。を<sup>ト</sup> 桜川(八二八) 和光利物。は<sup>ト</sup> 絵馬(三〇八)

〇八)

ラッ

放埒。したる 高野物狂(七五〇)

リッ

六宮 楊貴妃(二一六〇)

律師 来殿(二二二九)

レツ

一列。し 来殿(二二三〇) 座。列。せり 春日龍神(四七四)

勝劣。を<sup>ト</sup> 春榮(九三七) 木賊(一五〇六) 武烈。天皇 花筐(一七〇四)

右の促音のものの中、殺生・説法・脱す・鉄壁・八歳・発起・筆者・仏教・末世・律師などの日常語を除き、諷い方の特殊のものについていうと、助詞「は」は上に促音が来るとたと謡う。「臚月は・大菩薩は・時節は・両舌

は・獄卒は・白髪は・天罰は・後仏は・自仏は・前仏は・利物は・差別は一の「は」は皆々と謡うのである。動詞「あり」などが接すると、「士卒あり」の如くなる。助詞「を」がつくと、トとなる。「花月を・年月を・明月を・時節を・一鉢を・衣鉢を・罰を・天罰を・大念仏を・廬舎那仏を・天王記別を・供物を・代物を・優劣を」等は皆トとなる。

日常語でツ tsu という語も、助詞「と」がつくとすべて促音になる。「山賤と・同穴と・海月と・花月と・令月と・白骨と・菩薩と・切々と・白髪と・一仏と・無量寿仏と・不成仏と・即仏と・弥陀仏と・御神物と」の類である。「山賤」だけは觀世・喜多共にツとそのままだに謡うことは前に記した。

以下はツをノム音にもなし得るのが下に接する語句などのため促音に謡う。「鉄札数を尽くし・柳髪風に・時節刑戮に・菩薩声々に・真実志の・念仏四五返・漢月袖に・時節唯今なり・槿花一日唯同じ・江月照し・皎月照し・万物時にありながら・弥陀仏即滅無量・退出しける・離別して・生滅し・放埒したる・一列し・念仏して・念仏す・成仏する・成仏せしめ・座列せり・颯々たる・白髪たるべきが・八月九月・明月清風・隴月松閣・菩薩聖衆・解脱上人・念仏三昧・念仏衆生・仏衆生・紫雪紅雪とて・時節到来・斜日竹竿・大菩薩八幡・生別離・一殺多生・一筆啓上・顯密兼学・讚仏転法輪・成仏得脱・人仏不二・龍女成仏さてこそ・仏力」などがそれである。

以上の中、ノム場合に示した語句と全く同一のものがあるが、これ等は節付等のため促音になっていることが多い。促音の場合の実際の謡い方は節のついていない「詞」のところははっきり促音にするが、節付の場合、多くは音を引いて軽く促音が入るように謡うのであるが、紙面が増すので別に記すことは割愛した。流儀によっては、同じ語でも読み方や発音の違うものもあり、その一二は前記中にも記したが、大仏供養中の「大仏供養」は觀世・金春は「仏」をノムに従い、喜多は促音にし、宝生はノムにも促音にもせず普通のツに謡う。大原御幸中の「悉達太

子」は観世・喜多はシツダタイシと読み、ノムで謡い、金春はシツダタイシと促音にし、宝生はシチダタイシと謡う類であるが、今回は専ら宝生流を主としたので、これも一々記さなかった。

なお引例中、朽骨・大菩薩・法華一仏など次に来る語を記してないものは、それが本文で終止的になっている場合である。初めの原稿では後に続く文句も書いたのであるが、紙面節約のため削除した。その外でも途中で削除したところがあり、大分統一を欠くようになってしまったことをお断りしておく。